



5月25日大学生3名が母校に教育実習に来てくれました。母校緊張した面持ちのスタートでしたが、生徒達に歓迎会を開いてもらいコミュニケーションをとりながら少しずつ気持ちもほぐれてきたようです。教師を志す理由は、様々ですがメモを取りながら授業参観したり、様々な先生の話の話を聞いたりする姿勢は真剣そのもので、頼もしいと感じます。

生徒たちの先輩でもある3名に飯中生の印象を聞いてみました。

「授業中に、感じたことや思ったことを言葉や表情に出して伝える姿や、わからないことやできないことについて友達と共有したりしている姿をみて素直な生徒が多いと感じました」

「歓迎のレクで、クラスの仲間と一丸となって企画・運営に取り組む生徒姿を見て、とてもパワフルだと感じました。この飯網という土地で伸び伸びとたくましく成長しているのだと実感しました」

「あいさつが素晴らしい。私よりも先にあいさつをしてくれる人や大きな声であいさつとしてくれる人もいてとてもすてきだなと思いました」

実習期間に子どもたちと関わることを通して「どんな教師になりたいか」深く考える機会にしてほしいと思います。

5月22日の放課後にメンターリーダー主催の「メンターカフェ」が開かれました。参加者は20～60代まで、幅広い年代の先生が参加して、初任者の先生から出された「授業開きがうまくいかなかった」という話をきっかけに、お茶やお菓子を食べながら、互いの工夫を凝らしたオリエンテーションのあり方について学び合いました。